

- (1) 謹賀新年
- (2) 中央春闘討論集会
- (特) 三池炭鉱掘出し物語
- (3) コラム 「コロナ禍に思ふ」
- (4) 少額訴訟・勝利

SOLIDARITE「連帯」 ソリダリテ

建交労大牟田支部通信

(No. 55)



荒木栄うたう会：伊藤武さん提供（三池港の夕景）

コロナ禍を乗り越え、私たち労働者階級と
人民の夜明けを今年こそ！

謹
賀
新
年

- 「有明の海に燃え上がった赤い火」
- 「三池の地底から燃え広がった闊いの火」
- 「みんなの心を美しくしたあつたかい火」
- 「平和を築く力を伝えたたくましい火」
- 「赤々と燃え続いている誇り高い火」
- 「日本の夜明けを拓く熱い火」

しかし、これらの苦難は、組合に結集する仲間たちのため、熱烈な支援で、苦難を乗り切ろうとしている。

改めて、労働組合に結集することの意義を考えさせられました。

左の曲みは、労働者作曲

労働者作曲家・荒木栄が合唱・詩構成詩劇「不知火」で闘いの火に名付けた

私たち労働組合の、とりわけ建交労の仲間たちの胸には、この「人たるに値する」権利意識の火を絶やさず、一步前へ進んで行こうではありませんか！必ずや「夜明けは来る」と確信して。

ルスとの闘い、令和2年7月豪雨災害との闘い、塗装業賃金未払い事件の闘い、アスベスト関連疾患労災認定の闘い。

そしてそれは、労働者のたくましさと「人」としての権利と誇り、結果、最後には「日本の夜明け」を拓くという社会そのものを直視している。

昨年は、新型コロナウィルスとの闘い、令和2年7月豪雨災害との闘い、塗装業賃金未払い事件の闘い、アスベスト関連疾患労災認定の闘い。

家：荒木栄が合唱詩劇「不知火」の冒頭で地元有明地域での闘いの炎を書き綴っています。

3. 踏みにじられた者のなお明日を生きる
2. 踏みにじられた者のなお希望あふれる瞳見よ
1. 霧も砂ほこりも吹雪も風もおれたちの行手を阻むことはできない

「大行進のうた」

じかたび
私たち建交労の前身である全日自労大牟田と労働者作曲家・荒木栄の共同作品で現されているのは、人としての、労働者としての「なにくそ、負けんぞ！」というたくましさを感じ取れます。

2021年春闢中央討論集会

11月21・22の二日間で、静岡県伊豆箱根のサンバレー富士見で行われた春闘討論集会。

福岡県本部からは、4名が各部会で臨みました。



緒方書記長の発言が奥のスクリーンのように全国に映し出される

ス感染には細心の注意を払い
本集会では、先ず、この前日
に逝去なさつた、トンネルじ
ん肺根絶闘争団の船山団長に
向けて全員で黙とう。

今回の特別報告として、福岡県本部の幹部養成学校の取り組みの歴史を県本部の緒方書記長が報告されました。

左写真でも分かるように、本集会は、会場と全国の仲間たちをweb形式で繋ぎ、全

トランク協議会の若頭である吉村さんは、組織拡大の宣伝行動や物流ターミナルなどへの立て看板設置で、様々なトラックドライバーからいくつもの相談の電話を受け、組織拡大の芽が咲いてきたと発言。

A medium shot of a man with short dark hair, wearing a light-colored button-down shirt, standing at a podium and speaking into a handheld microphone. He is looking slightly to his left. In the background, there is a large banner with the text "2020年11月" (November 2020) and some other partially visible characters.

被つた組合員らへの全国の建交労の仲間たちから支

今年、7月6日に始
まつた令和2年7月豪
雨災害を受けた大牟田
全域、そして、被害を



ドに、1963年（昭和38年）11月9日の三井三池炭鉱三川坑炭じん爆発に展開し、三池労組・三池新労組・職員組合・組夫の慰靈碑が、三川坑第一斜坑跡に統合設立さ



参加型の集会となつた

菅ニモ負ケズ・コロナニモ負ケズ・資本カラ/重圧ニモ負ケナイ

初めて伊豆半島に行きましたが、富士山が近くに見えるんですね。

今回の特別報告として、福岡県本部の幹部養成学校の取り組みの歴史を県本部の緒方書記長が報告されました。左写真でも分かるように、本集会は、会場と全国の仲間たちをweb形式で繋ぎ、全国の全員

トランク協議会の若頭である吉村さんは、組織拡大の宣伝行動や物流ターミナルなどへの立て看板設置で、様々なトラックドライバーからいくつもの相談の電話を受け、組織拡大の芽が咲いてきたと発言。

援に、深々とお礼を伝えて、その後の復旧作業や大牟田市保護課とのバトルに発展し、全国各地で起きている災害で、収入とはみなさず「生活再建資金」に充てる事例を保護行政に説き、挙句に「あなたたちの仕事は、一本淮の為のし

れ、未だ止まぬ石炭じん肺やCO中毒患者の遺族補償などを被災者とその家族と共に懸命に行っていることを報告。その他にも全国の仲間たちから各地で取り組まれている激しい運動の報告がされ、建交労の多業種を束ねる労働組合だからこそ出来る「心通つた本気の共闘」をひしひしと感じ、大会を終えました。

コロナ禍の裏側に思ふ
一向に収束しない新型コロナ。感染状況にともなって目に見えない深刻な状況が色々な所で垣間見える。いじめ、自殺、差別、引きこもり、家庭内問題。外出がままならない今、私達に何が出来るか。

どの都道府県でも相談窓口の電話がひつきりなしになっている。行き場がない相談者によると「電話しても1週間電話が繋がらない、かけていつも話し中」。現状を聞いてみると受ける側の人出が足りないとか。人出が足りないとか。そんな時一本の電話が鳴った。

幸い開いていた電話に繋がり話す事1時間。相談相手は20歳の女性。話

コラム

が一段落して内容を明確ではないが聞いてみた。その女性は一流大学には合格した者のこのコロナ禍の中オンラインの授業に付いていけず、個人的に教授に聞きたいことがあつてもオンラインだと聞きづらく、このままじや単位すら取れない。

●就職どころか進級すら危うい。

●親もコロナのせいで解雇。親にも相談できず一人苦しんでいる。

●学費を払うためバイトをしていたがコロナで待機要請。

また、ある相談では医療従事者の方で、今問題になつている偏見と差別で職を止めざる負えなくなつたとか。

親戚からも、親からも出入りは暫くやめてくれと言われた。医療現場では口に出来ないくらい過酷な現状。自分もいつ感染するかわからない。使命感と恐怖のはざまで、ストレスが原因で子供に辛く当たり、夫婦間にも口争いが絶えなく離婚の危機に。その子も学校で「お前の親はコロナだ!」といじめにあつていた。

命を救つてきた。救命医療にも携わってきた。そんなベテラン看護師にもコロナと言う厚い壁がはだかり心を病んでいる。何が原因で人間をここまで追い込むのか。コロナの一言で済まされるの

て言うのは肩の荷を重くするだけ。ただ最後に「あなたは決して一人ではない。寄り添える人がきつと現れます。貴方の心は救えないけど貴方が少しでも灯がともれば嬉しいです。」とコメント。

まだ他にも「解雇、内定取り消し、孤独死、自殺、・・・」など。見えない所で苦しんでいる人間は沢山いる。

国会が閉会してもなんら変わらない。

(猿渡)

とにかく苦しい胸の内を聞いてくれる窓口がない。問題解決にはならないにしても一緒に寄り添えることは出来ると思ふ。行政だけではなく民間でも助ける事が出来るのではないか。何でも出来ないもどかしさが募る毎日である。



Work-matome.com引用

塗装業賃金未払い事件

被告双方の証拠不十分として、被告が原告に対し約17万円の支払」を命じる判決が下された。

原告である、Kさんは、仕事を休んででも判決を聞きに来た。

あくまで自身の事件でその判決を聞くのは当然の事として、自ら裁判所に臨んだ。満額の判決内容では無かつたが、証拠たる勤務日数に確た

個人事業主 「煌塗装」での賃金未払い事件の少額訴訟（柳川簡易裁判所）の判決が、11月2日法廷で言い渡された。

少額訴訟・勝利!

る証拠立証が出来なかつたことは本人も認めること。

しかし、「今どきの若者」というくくりで言うべきではあります。が、自己解決の意思の強さがよく分かった。

この当事者意識は、これを担当した書記長としては非常に嬉しい事で、「自立心」が強いしつかり者と感じた。

ただ、勝利判決は出たものの、反社会的な被告が、この判決だけで未払い賃金を素直に支払うとは思えない。

それを前提に、次の手段に出る。

①裁判日の2週間後に裁判所に対し「送達証明・動産開示請求」の申し出を行う。

②その2週間後に裁判所の権限を行使し、被告の銀行口座やその他動産などの差し押さえを申し出る。

「働いた分はちゃんとうですが、Kさんの数が間に合わないよ

と請求する」と言う労働者としての権利意識の高さには感心します。この労働者魂を裏切らぬよう、事件担当として責任を全う出来るよう全力を尽くすのです。

しかし、おかしなものです。事件担当者も若かりし頃「今どきの若ものは」と周囲に言われ気分を害していたが、自分が同じことを言うようになつたのだと思いましらされました。

このKさんは、筋の通つた骨のある男と見込んで、「鉄は熱いうちに打て」のようにしつかり指導・援助していくたいと思つています。

支部の仲間の力を借りながら、労働者の「人」としての成長をワクワクして見守りたい。

＜行事予定＞

1月

- 4日(月) 10:00~新春旗開き(お楽しみぜんざい会)

10:00～勞職分會+民間分會

13:00~公共一般分会定例会+民間分会

(できるだけ密を避けるため、労職と公共一般を分けて民間分会は、どちらかで参加。)

8日(金)13:00~労職分会定例会

13日(水) 9:00~伊丹支部・高木さん来組(就労支援事業団意見交換会)

17日(日) 9:00~第72回支部委員会(総合福祉センター2F)瓦町

26日(火) 大牟田地区労連定期大会

27日(水) 14:00~なくせじん肺・アスベストキャラバン

実行委員会（ZOOM参加）

2月 1日（月）13：00～公共一般分会定例会

5日(金) 10:30~県本部執行委員会

6日(土) 13:30~県労連評議委員会
(第3階成ビ)

9日(火) 10:30~内藤訴訟
(新日鉄八幡アスベスト事件)

健康相談会	
(12月末時点)	
石綿健康管理手帳 ..	4名
じん肺管理区分4 ..	1名
じん肺管理区分2 ..	2名
じん肺合併症決定 ..	2名
合併症申請予定 ..	3名
遺族補償申請 ..	2名
CO患者遺族補償審査請求 ..	1名
石綿労災認 ..	1名
石綿健康管理手帳申請 ..	1名



通勤と物流を支えた炭鉱電車・そして今

12月19日、石炭科学館で連続して行われている「三池炭鉱掘出し物語（通勤と物流を支えた炭鉱電車・そして今）」と題して、建交労大牟田支部の平川執行委

会場には、30名を超える方が話しを聞きに来られました。炭鉱電車の操車手として、39年間働いてきた経験と権利獲得などの講話がありました。

三池炭鉱掘出し物語

員長（以降、平川さんと呼びます）が三



上記の写真は、平川さんが閉山の定年退職時に、列車やレールなどに世話をになったという意味でお神酒を捧げたとの事です。この場面を複数の新聞社が取材に来ており、その一枚です。

平川さんは、昭和33年6月10日に三井石炭鉱業（株）三池炭鉱に就職されま

る。三池炭鉱では、坑内労働で汗をかき、粉じんまで一杯引つかけて赤い顔

通勤電車も3交代制が敷かれてい、そのダイヤも駅に掲示してありました。三池港駅では、坑内労働のみれの身体を洗い流し、

経由して東谷まで運行されていましたとの事。

通勤電車も3交代制が敷かれてい、そのダイヤも駅に掲示してありました。三池港駅では、坑内労働のみれの身体を洗い流し、

万トン、年に520万トントンもの石炭を貯炭層に運ぶのがメインの役割であった。貯炭場は、四ツ山、浜と港の貯炭場、三池闘争や三川坑炭じん爆発など操業できない時でも供給を賄えるほどの超膨大な貯炭場だった。

炭鉱電車の路線は、全

坑がある三池駅から馬渡を駅まで、三池港駅から万田駅まで、三池港駅から宮浦駅まで、宮浦坑がある宮浦駅から馬渡を駅まで、三池駅まで、宮浦駅まで、宮浦駅から枝分かれしている支線が伸びていて列車の入替えで活躍していました。

裏ページに記されている地図は、炭鉱電車の主な路線図で、本線とそこから枝分かれしている支線が伸びていて列車の入替えで活躍していました。

又、本線では、日に2万トン、年に520万トントンもの石炭を貯炭層に運ぶのがメインの役割であった。貯炭場は、四ツ山、浜と港の貯炭場、三池闘争や三川坑炭じん爆発など操業できない時でも供給を賄えるほどの超膨大な貯炭場だった。

炭鉱電車の路線は、全

をして呑んで帰ってくる労働者の姿で、みんな安堵感を覚えたものだったそうです。

したが、当時、労働組合の権利獲得の勢いが強く「入れ替え採用」を用いて入職されました。

先ずは、通

勤電車としての役目を大きく担つた列車について説明があり、三川坑がある三池駅から馬渡を駅まで、三池駅まで、三池港駅から宮浦駅まで、宮浦坑がある宮浦駅から馬渡を駅まで、三池駅まで、宮浦駅まで、宮浦駅から枝分かれしている支線が伸びていて列車の入替えで活躍していました。

炭鉱電車は、日常生活に密着した役割も果たしていました事がよく分かる説明でした。

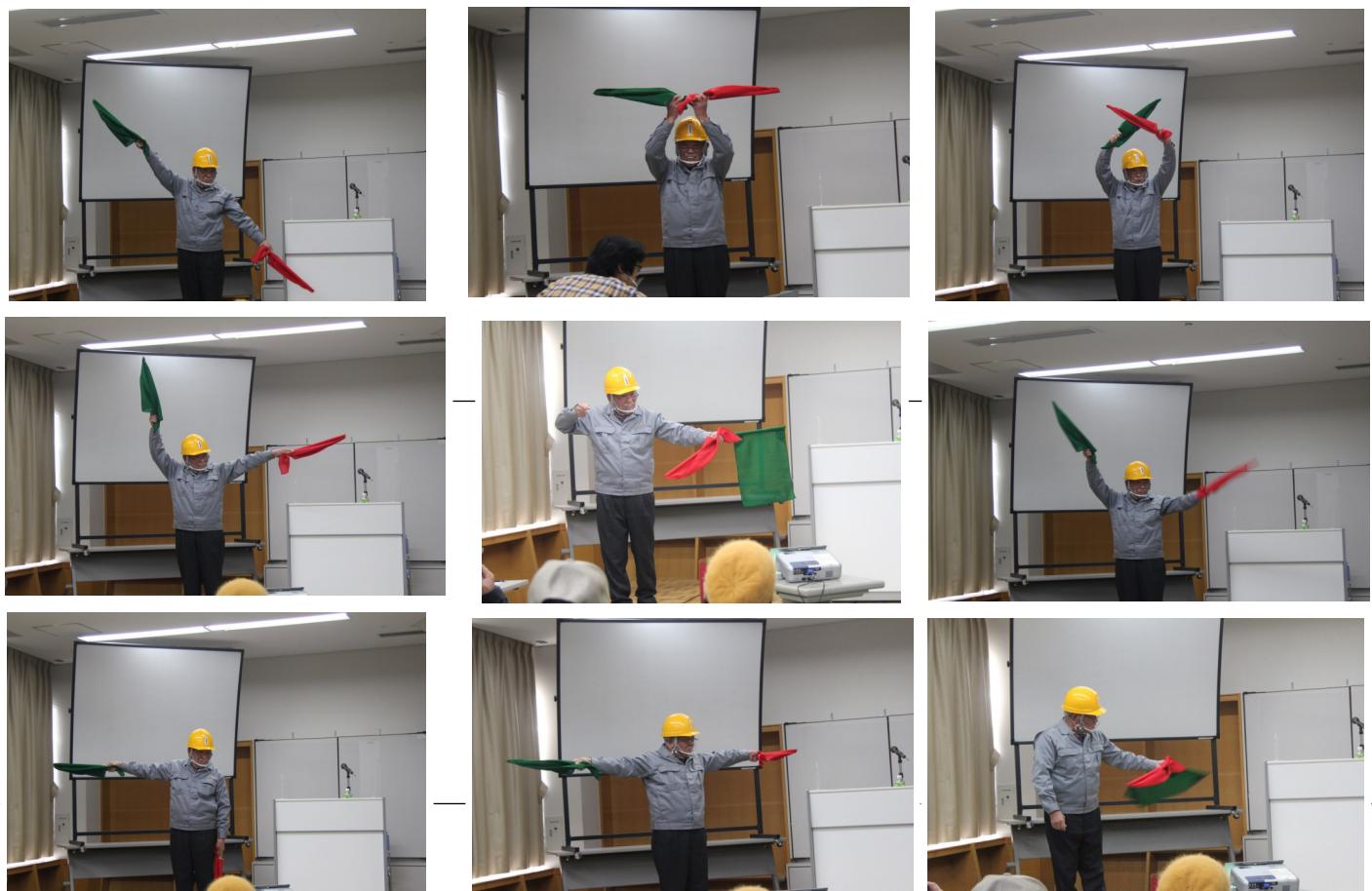
西原～原万田間や末広踏切～七浦信号間の勾配は激しく、操車手も気が気ではなかつたそうです。特に七浦信号では、運転手とのきめ細やかな連携が重視される極めて難所だそうです。

三池炭鉱掘出し物語で

39年間に渡り危険と背中合わせで働いてこられただけあって、振り合図の実演とその意味を披露。



※作成：立川哲也氏 HP『三池炭鉱専用鉄道研究所』より転載



今まで運転手と操車手の「安全運行」への信頼関係が最も重要だという事でした。今でこそ、建交労大牟田支部の執行委員長ですが、三池炭鉱での専門職としての貴重なお話を聞きました。坑内での労働だけではなく、鉄道の業務も日本一の出炭を支えた労働なのだと知られました。

一つひとつの動作に込められた危険回避の為の振り方（パートナー）がいくつもあり、それを身体で覚えている事に、本当に驚きました。最後に一番印象に残つたのは、安全運行する為に、第一組合・第二組合の敷居は言つていられない、あくまで運転手と操車手の「安全運行」への信頼関係が最も重要だという事でした。